

第5回

武蔵野市立北町高齢者センターあり方懇談会

会議要録

日時 令和5年1月11日（水）

場所 武蔵野市役所812会議室

午後6時00分 開会

(1) ボランティア意見交換会の実施結果について

【座長】 議事の1つ目「ボランティア意見交換会の実施結果について」説明をお願いしたい。

【事務局】 ボランティア意見交換会の実施結果については、資料1をご覧ください。昨年12月16日に開催した意見交換会の主なご意見をピックアップして箇条書きにした資料である。振り返りの参考に抜粋して説明したいと思う。

まず、「ボランティアを始めたきっかけ」を皆さんにお話しいただいた。その中で、山崎医院の患者さんや、勤務をされていた方ということで、山崎先生にお誘いを受けて始められた方が多くいらっしゃった。開設当初から30年以上、現在までボランティア活動を続けていただいていることになろうかと思う。また、ご友人や、近所の知り合いの方に誘われて、開設後、途中からボランティア活動に携わられた方もいらっしゃった。

続いて、「ボランティアの内容」について。特に最初、調理のボランティアから入られた方が多くいらっしゃった。その後、調理の委託化もあったが、ご自身の得意なことを生かされて、様々な活動にご協力をいただいて、活動を広げていかれたと思う。

次に、ボランティア活動の「今後について」。現在コロナ禍でほとんど活動ができていないという状況の中で、今後、活動を徐々に再開する中で、方向性が出てくるのではないかといったご意見があった。また、ボランティアの皆さんの経験や、ボランティアへの思いを継承していくことで、山崎先生の思いが繋がっていく。もしくはボランティアに参加する方の確保・育成につながるのではないかというご意見があった。

そのための「プログラム」としては、資料に記載のある事業のご提案をいただいた。あわせて、プログラム以外にも、例えば、名称から「高齢者」を取るといったことや、外から中の活動が見えるほうが興味を持ってもらえるのではないかといったご意見をいただいた。資料1の説明は以上である。

【座長】 ただいま説明いただいた資料1について、当日ご出席の委員の皆様から追加の意見や感想等があればまず聞かせていただき、当日いらっしゃらなかった委員からも、改めてコメントを頂戴できたらと思う。

【委員】 実際にコロナ禍になってから、ボランティア活動は今まで携わっていただいたものとは状況が全く変わってきていて、今回こういった意見交換会をした際に、お話を

していただいたことを私も聞かせていただいて、ああ、そうだったんだと知ったことも多くあったので、ボランティアの方々がこれからの北町高齢者センターをどのようにお考えになって、これからどのようにかかわっていただけるのかということについては、丁寧に、いろいろなご意見等も伺いながらやっていく必要があるなど感じた。

ご意見をいただいたことの全てがかなえられるだろうというのとは少し違うかなとは思いますが、お考えいただいたことや、これから今までの経験を生かしてというようなお話があったので、やはりそういったことを生かせる部分は大いに生かさせていただくことが必要なのかなと思った。

【委員】 ボランティアの方々のご意見は記載されているとおりに思うが、このセンターの今後についても活動を徐々に再開する方向でという記載があり、実際に再開をし始めている。対面で、ボランティアの方にフロアに来ていただいて、実際にお茶を出していただいたり、プログラムに一部ご協力をいただいたり、そういった参加をさせてもらっているという状況である。

みずきっことの交流も、テレビ画面（ウェブ）でしか交流ができなかったが、これも対面で、プログラムにも一緒に参加をしてもらっていて、一緒に楽しみ、お互いに相乗効果で、参加されている方も表情がよくなってきている。やはりこういった対面交流が非常に重要なんだというところを感じている。

【委員】 ボランティアの方の熱い思いは本当に伝わってきているのだが、ボランティア自身もとても高齢化が進んでおり、むしろ利用者に近いような感じの方も出てきている。今までのボランティアのやり方ではだめという思いはある。しかし、倫子先生の思いをつなげるにはどういう形がいいのかなと考えるところである。

私もボランティアとしてかかわってきたが、コロナ禍の前は雰囲気は本当にとってもよかった。コロナ禍になってしまって、利用者さんと会えなくなると、やはり皆さん「寂しいね」という。最近また少し復活してきたので、楽しみはふえてはいるが、やはり高齢化がとても気になっている。

【委員】 皆さん自分が実際に経験なさってきたことを具体的におっしゃっていた。そのためそれが一番現実的なのではないか。実際に利用者との接点を持って、コロナでないときからの活動で、よかったのではないかと思う。

コロナ禍で様々な面で同じにはできない。私は音楽をやっているが、プログラムの内容が今までと全然違う。

ここにも書いているように、私と同じ気持ちを持っていることを皆さん1人ずつおっしゃっていた。

【座長】 たくさんのボランティアの方にご参加いただき、最後は本当に時間が足りなくなる感じで活発にご意見いただけたかと思っている。山崎先生への皆さんの思いやつながりといった、そういうことをきっかけに始められたり、またそれを大切にしながらやられているということが、個人的にすごく印象に残った。

一方で、例えばこの歴史の中で、みずきっこができ、建物のたてつけとして、動線に問題があるだとか、山崎先生の思いを踏まえると、「高齢者」を取ったほうがよいのではないかという意見もあったが、人や対象を選ばず、幅広い人たちに来てもらうことも大事ではないか、というようにとても前向きな意見であり、また山崎先生の思いを引き継ぎながら、時代に合った形にしていくといったご意見もあったのかと思う。

新しいボランティアの方はどう入ってもらうのか。仲間を増やしていくというところで、男性の利用者に関することがあったり、そういった課題も私どもとも共有させていただく中で、様々なアイデアをいただくことができ、ちょうど盛り上がってきたところで終わったという感じだったと思う。詳細はご用意いただいた懇談会の議事録に細かく書いてある。私もそれを見ながら思い出していた。

【委員】 私は当日欠席だったので、議事録でご意見も見させていただき、思った以上に活発な意見交換がされたのかなという印象と、それから皆様、今後について、私が思っている以上にいろいろな方向から考えていらっしゃるのかなという印象がある。先ほど座長がおっしゃられたように、「高齢者」という部分を取ってもよいのではないかというようにところも含めて、我々が発想しないようなことまで皆さんお考えになられていたので、そのあたりをどこまで考えていけるのかというのは今後の検討かと思った。

【委員】 前回欠席をして、議事録を拝見する限りだが、すごく大事に守ってこられた施設なんだと、今回初めてかかわった私としては印象を持っている。

ただ、それをいかに変えていくかというのは、実はそちらのほうが難しい。皆さんの思いがあまりなくて、もうこれを変えてもいいやと思ってきていたほうが、一気に変えることができるので、本当は簡単である。それだけ思いのあるものを変えていくというのは、何を守り、何を变えていくのかということ、取捨選択していかななくてはいけないと考えたと、難しい課題を与えられているんだなということ、改めて議事録を拝見して思っている次第である。今日は報告書の議論等もあるので、またそういったところで、いただい

たご意見を踏まえてディスカッションができればと思った。

【座長】 委員からもあったように、全てができるというわけではないと思うが、まずは、アイデアをたくさんいただけたことがよかったなということと、そのあたりを踏まえて進めていくということだと思う。

(2) 北町高齢者センター事業イメージについて

【座長】 次の「北町高齢者センター事業イメージについて」説明をいただきたい。

【事務局】 資料2-1、2-2について。これまでの第1回から第4回までの懇談会や各ボランティアの方からのご意見を踏まえ、検討すべき事業、場所、曜日について整理をさせていただいたイメージ図である。

資料2-1は、現状、月曜日から金曜日と土曜日にもデイサービスを行っている。デイサービスを実施するという前提で、どういうものを検討していくかということを図に落とし込んだものである。基本的には小規模サービスハウスイリアの新たな活用を含めて、施設を有効活用するために検討していく必要があると思っている。検討事項として1つ目は、今申し上げた小規模サービスハウスイリアと、土曜日に会議室で個別機能訓練がないということで、そのスペースで何か事業を実施することができるかどうかを考えていただけたらと思う。事業の例としては、「検討事項」に記載の事業が考えられるのではないかとということである。2つ目については、ボランティアとの意見交換会でもお話があったことで、デイサービスは実施をしているが、活動室や静養室のあたりがうまく活用し切れていないのではないかとのご意見。デイサービスの実施中に活用することが可能かというところからの検討が必要かと考えている。例として数は少ないが、記載のようなものが考えられると思う。検討事項の3つ目としては、ご検討いただいた事業をいつから始められるかということ整理しておきたい。現状の運営状況のままですぐに始められることもあるだろうし、改修をして、その後始めていくものや、モデル的に、スモールスタートのような感じで始めていけるものもあるかと思うので、1番目と2番目に検討した事業の開始時期もあわせて整理をしたいと思っている。

続いて、資料2-2は、第3回の懇談会でご提案をさせていただいた土曜日のデイサービスを中止し、厨房を活用して、ほかの事業を実施する場合のイメージを図にしたものである。その際にもご提案をさせていただいたコミュニティ食堂については、今回はカフェやひろばについてもボランティアの方から様々なご提案があったので、食堂に限らず、カ

フェ・ひろばといった形での実施も含めて、そこを実施するという前提で、この図はつくらせていただいた。検討事項としては、今申し上げた食堂・カフェ・ひろば等の事業を実施をすることができるのか、すべきかどうかというところと、先ほどの資料2-1と同様に、2階の会議室、小規模サービスハウスエリアでどのような事業ができるのか。また、デイサービスを実施しない場合に、旧山崎邸の1階の部分も何か活用して事業ができるのかということをご検討いただければと思う。例えばコミュニティ食堂は1階全フロアを使ってやるということも考えられるだろうし、厨房と中庭とデイルームを、そういったコミュニティひろばとして活用して、残りの山崎邸1階は、別の事業を実施するという可能性もあるかと考えている。例としては、先ほどの資料2-1とかぶるところもあるが、記載のようなことが、これまで出たご意見、ご提案の事業になっているかと思う。資料2-1と同様に、事業の実施時期もあわせて整理ができたかと考えている。

【座長】 基本的には月曜日から金曜日、または土曜日までは今と同じような形で、デイサービスと、2階ではデイサービスの個別機能訓練。ただし、小規模サービスハウスのほうでは、前回までの話では、色々な事業が行われる。土曜日になると、1つの案として、食堂を活用したコミュニティカフェといったものが考えられるのではないかというお話だったかと思う。何かさらに具体的な案やご意見があれば。

【委員】 資料2-1について。月曜から土曜までデイサービスを実施しているが、風呂場は旧山崎邸にあるため、そちらのほうで入浴の対応をしているという状況。例えば平日に事業が活動室で実施されるとなると、入浴後に脱衣で使っているお部屋、また頭を乾かすとか、そういったところも含めて、スペース的なところが限られてくる問題だとかも出てくる。間違えて隣を部外者の人が開けてしまったりすると、そこで入浴しているという状況ではあるので、ここでの事業はどうかなということは感じた。

【座長】 1階の「【要検討】各種事業」のところかと思う。旧山崎邸にある「活動室」と「静養室」の点線の囲みの部分で、そこが浴室と連動して使われているのではないかといいところである。「大規模改修前後」とあるが、小規模サービスハウスの形をしばらく残すことが想定されているということか。

【事務局】 小規模サービスハウスのレイアウトをどうするかというところと、活動室や静養室も改修をする可能性があるのかどうか。

【座長】 やるときは全部一緒にやるということか。

【事務局】 その後でないか実施が難しい事業や、プライバシーの確保のお話といった

ことも含めて検討できればと思う。

【委員】 資料2-1、2-2の図は報告書には載せるのか。

【事務局】 先にご説明させていただくと、報告書の10ページに「今回（第5回）ご議論」という形で落とさせていただいている。具体的な案やイメージを含めて、今日ご意見をいただいた内容を、新たな活用案、事業のイメージとして報告書に載せていきたいと考えている。そのため、今日の意見を踏まえて、資料2-1、2-2をブラッシュアップした上で載せていければというようなイメージでいる。

【委員】 なぜお聞きしたかという、報告書のたてつけは、まず、北町高齢者センターはコミュニケアサロンと小規模サービスハウスで構成されている。コミュニケアサロンの中身が、1つはデイサービスと子育てひろば「みずきっこ」という整理になっている。そういう整理が前提にある上で、この図を見ると、ここで言うデイサービスは、したがって、コミュニケアサロンの話である。つまり、用語の統一感というか、そこを整理していただきたいというのが1つ。もう一つは、これまで北町で使ってきたデイサービス、コミュニケアサロン、小規模サービスハウスという用語と、現時点において、介護保険法や障害者総合支援法などで用いられている用語を整理しないと、おそらく見た人が混乱する。デイサービスは、介護保険法上は通所介護というイメージになり、障害者総合支援法でも出てくる。そういう言葉の使い方は、過去の歴史の中で、北町がずっと使用してきた用語と今日的な用語が一緒くたになってしまうと、初めて報告書を見た人に「これは介護保険のデイサービスのことかな」と思われてしまう可能性がある、そこは整理が必要かと思う。

以前も申し上げたが、これを議論するとき、対象と機能・役割という話と、制度や財源の話というのがあって、この図だけで見ると、デイサービスについては機能のことが書かれているが、子育てひろばは、対象と機能が合わさった用語になっている。デイサービスを単独で置くと、対象が誰なのかよくわからなくなる。事業イメージとして書くのであれば、北町高齢者センターの今後のあり方というのは、前回のボランティアの皆さんのご意見を踏まえると、やはり地域に開かれて、積極的に地域の皆さんに集っていただけるような倫子先生の思いを具現化していく施設であり続けたいということである。そうすると、実は古いようで新しいことをやろうとしていて、これまでの社会福祉という世界は、障害のための施設、児童のための施設、高齢者のための施設ということで、それぞれに制度が先にあり、その体系の中で施設がそれぞれ用意されていた。いわゆる縦割りであった。私

のイメージだが、倫子先生の思いが、今時間を超えて、今日的な地域共生社会と言っているものの具現化になっているのだろうと思う。そうすると、これは古いようで新しいことをやっていて、その先駆けであったということである。先駆けであったことが、時代が追いついてきたというか、そういう形でイメージしたほうがよい。これまでかかわってきた皆さんの思いを報告書に具現化することでも、やはりそちらのほうがよいだろうと思う。時代にそぐわなくなったので、という話ではなくて、むしろ今日的な地域共生社会の中で北町高齢者センターは再生するのだとか、時代に合った役割を新たにまとうのだといった書き方のほうがよいかと思っている。そうすると、事業イメージもそのように少し整理したほうがよいかと思う。

それから、用語の使い方について。今、調整計画を同時進行でやっているのだから、色々な文書を読み、頭の中が混乱することがある。まず、元気高齢者という用語は使えるのか使えないのか。また、個別機能訓練は、注意をしないと、特別養護老人ホーム、介護老人福祉施設の中では、「機能訓練」という言い方をしているが、医療系のサービスでは、「リハビリテーション」という言い方をしていて、そこは意味があって使い分けをしている。要は、医療の関与があるのかないのかというところで線が引かれている。意味はわかるので、我々には通じるが、これを報告書に載せるときの使い方としてどうか。「元気高齢者事業」という用語は、高齢者福祉では、制度的になかったかと思う。そういった用語の使い方も含めて丁寧にしておいたほうが、後に様々なハレーションを起こさないかと思う。

(3) 懇談会報告書（素案）について

【座長】 それでは、議事の(3)「懇談会報告書（素案）」について説明をお願いしたい。

【事務局】 「報告書（素案）」を開いて最初にある「目次」については仮という形で入れさせていただいている。1ページの「はじめに」では、これまでの北町高齢者センターの思いや、どういった経緯で設立されたのかというところを改めて示している。その中で様々な機能が加わり、今回の懇談会設置に至ったという経緯を示している。

2ページは「センターのこれまでの歩み」について。時系列で主立った事項をまとめたものである。昭和62年10月に単独型デイサービスと高齢者住宅が併設され、平成7年にはダイアナ妃が視察された。施設に入ると、ダイアナ妃が視察されたときの写真も飾っている。平成12年、こちらは先ほど委員からも指摘があったとおり、介護保険制度の施行

と同時に、介護保険のデイサービス（通所介護）としての運営をしているので、こういったことも報告書の中ではきちんと定義をして、お示しをしていきたいと思う。平成 17 年に指定管理者制度が始まったというところと、遺贈があり、みずきっこメモリアルルームについても、ボランティアさんのご意見もあったので、こちらで示している。

3 ページ、「懇談会設置に至った経緯」について。こちらは第 1 回の会議の中でもご説明をした内容で、今回、市で北町高齢者センターあり方懇談会を設置し、予定としては第 6 回までを開催して、皆様から様々な意見を聴取し、助言を求めているという内容である。

4 ページは「現状の課題」ということで、高齢者の状況について説明している。センターが開設された昭和 62 年当時の資料をひもといてみると、人口は 13 万 6,000 人であった。現在は 14 万 8,000 人なので、人口は微増という形だが、高齢者人口がかなり伸びている。当時は高齢化率が 10.5%だったが、現在は倍以上の 22.3%となっているということも参考までに記載をしている。

2 つ目として、「北町高齢者センターの状況」について記載をしている。こちらはコミュニティケアサロンと小規模サービスハウスという 2 つの機能があることを示して、(1)で「コミュニティケアサロン」について説明している。こちらは指定管理者となっており、市の指定管理のモニタリングの評価結果の報告書があるので、ここについては報告書からの抜粋という形で、現在の評価の状況を記載している。

5 ページからは、これまでの資料で載せさせていただいた状況を書かせていただき、デイサービスの現状と課題、実績を載せている。②「子育てひろばみずきっこ」についても同様の記載をしている。6 ページ (2)「小規模サービスハウス」についても、同じようにモニタリングの評価結果の報告書から記載を抜粋し、現状と課題という構成である。

7 ページについて。ここからがこの懇談会でいただいたご意見をまとめたものになる。1 つ目として、「コミュニティケアサロンの継続について」ということで、「山崎浩・倫子先生の思いを繋げ」というところから始まり、これまで実施してきたデイサービスと子育てひろばの機能については、引き続き継続をしていくのがよいのではないかとという形で記載している。また、皆様から様々なご意見をいただき、「懇談会におけるご意見」として、主立ったものを幾つか掲載している。

2 「小規模サービスハウスエリアの新たな活用について」。こちらについては、現在お住まいの方がお一人という状況である。その状況から、今後のあり方として、小規模サービスハウスは廃止とし、新たな機能へと転換していくのがよいのではないかとしている。

ただし、新たな活用案の検討に当たっては、現在お住まいの方もいらっしゃるのので、そこについては十分配慮をしていく。そのようなご意見をいただいているので、そこもあわせて記載している。下の枠については「懇談会におけるご意見」ということで、小規模サービスハウスについて、新たな機能について、ご意見をいただいたところを、議事録等から抜粋している。

9 ページ「ボランティアスタッフとの意見交換の内容」では、まさに先ほどお話をさせていただいた第4回の意見交換会の内容を持ってきている。内容については先ほど説明したとおりである。

10 ページ「新たな活用案」について、今回、資料2-1、資料2-2でお示しをしているが、事業イメージとして、このようなイメージ図があったほうがわかりやすいのではと思っている。できれば、こちらの資料をブラッシュアップした上で説明書きを加えるのがよいかということで、現在仮置きで「ご議論」と載せさせていただいている。

あわせて、施設改修について。「参考」のところに載せているが、大規模改修工事を、市の保全計画に基づき令和9年度に実施する予定となっている。そのため、今回の新たな活用案に向けて、必要な改修についても、そこで合わせて実施するのが効率的かということもあり、大規模改修に合わせて実施するのがよいのではないかと考えている。そこに向けて、例えばどういったしつらえがいいのか、どこまで改修をするのか、またはしないのか。そういった事業イメージを、事業の内容に合わせてご意見をいただけると、今後のヒントになるかなと思っているので、そちらもよろしくお願ひしたい。

11 ページについては「おわりに」ということで、こちらは最後、次回になるかと思うが、皆様からご意見をいただいて、締めの記事をしてまいりたいと考えている。

12 ページ以降については、資料編という形で考えている。これまでの懇談会の開催状況、設置要綱、また現状の平面図があったほうが、皆様イメージしやすいかと思っているので、載せさせていただいている。最後に委員名簿を考えている。

ご意見があれば、細かいところでも結構なので、この懇談会でいただければと思っている。いただいたご意見については、次回に案という形でお示しをしたいので、よろしくお願ひしたい。

【座長】 それでは、改修もというお話もあったので、報告書の部分と、先ほどの事業イメージを合わせて、ご質問やご意見があれば伺いたい。この懇談会の意見としてまとめていただいているので、これは入れておいてほしいとか、これは違うのではないかとはい

うことを含めて、いかがだろうか。

【委員】 確認させていただきたいのが、10 ページの「参考」で、「大規模改修の大まかなスケジュール」が書いてある。令和8年度に実施設計で、令和9年度に大規模改修工事とあるが、仮にそれまでの間に、小規模サービスハウスに住んでいらっしゃる方がお出になったりした場合でも、工事の時期は変わらないということか。

【事務局】 大規模改修工事の市の予定としては、こちらに記載のとおりとなっている。先ほどの資料2-1で大規模改修前後にできる事業の整理のところがある。例えば大規模改修に合わせて、その前に、大規模改修をしなくても一定程度、試行事業のような形でできる事業があれば、そうしたこともやっていいのではないかというご意見や、例えば相談をするのであれば、適したお部屋が必要なもので、そこについては大規模改修を経てからやったほうがいいのか、軽易な改修等については、その前にもできるのか。これぐらいであれば、大きな改修を経ずにできるのではないかというようなアイデアをいただいたり、そういったところでご意見をいただければと思っている。

【委員】 実際は、小規模サービスハウスは、この懇談会の報告書で廃止として、新たな機能へ転換していくことがよいのではないかという形で書いていくというようになっているが、市として新たに募集をしてないということは、もうそういう方向ということか。これはこの懇談会の報告を受けて、市がその後で検討して決めるという考え方なのか。

【事務局】 小規模サービスハウスは、6 ページにも記載のとおり、施設の大規模改修を見据えて、新規の入居者は停止している状況である。管理人が不在であるため、今現在は機械警備及び携帯電話による24時間対応になっているというところもあり、現状としては新たにお迎えをするのは難しい状況だと考えている。ただ、今後入居者を引き続き募集したほうがいいのかというご意見があるのであれば、ご意見として承りたいと思っている。

【委員】 では、この懇談会の報告書を経て、その上で市が検討するということになるか。実際はこの予算は、令和8年度の実施設計ということは、令和7年度の概算要求をするということか。

【事務局】 その前に1つ、第3回のときに、皆様に今後の方向性としてどうですかということで確認、お伺いをさせていただいたのは、小規模サービスハウスについては、こういった状況もあるので、廃止をした上で、今後新たなエリアの活用案を考えたほうがよろしいのではないかというところで、皆様からご意見をいただいたかと思っているので、報告書としては、その流れで作成をさせていただいているという状況である。

【事務局】 1点補足したい。大規模改修の中身については、基本的には給排水管が老朽化をしているため、その時期にはやらざるを得ないだろうというのが、大規模改修をその年度に実施するという前提になっている。そのため、この中身をそこでやるという設定ではなくて、建物を60年使い続けるために、その時期には、給排水管は少なくとも更新をしないと難しいということで、その年度の設定になっている。

【委員】 ハード面でのことか。

【事務局】 ハード面での大規模改修が令和9年度である。具体的には給排水管の更新は最低必要という状況が耐用年数上来ている。

【委員】 先ほど申し上げた小規模サービスハウスが仮に空き、どなたもいらっしやらなくなったときに、そこをどう使うかという話と、ハード面の大規模改修というのは、また別問題ということか。

【事務局】 発生の原因としては別問題である。ただし、そういった工事をするのであれば、あわせてやるのが効率的であろうということを念頭に記載している。可能性としては別の時期にやることはもちろん選択肢としてはゼロではないかと思うが、諸々総合的に勘案すると、タイミングがうまく合えばという前提で、そこでやるのが効率的かと今は考えている。

【委員】 今の委員のご質問に対する事務局の説明を踏まえて、もう一つ確認だが、報告書に書かれているように、北町高齢者センターは指定管理者制度が導入されている。それに基づいて、令和4年度武蔵野市公の施設のモニタリング評価結果報告書が出ている。私も見させていただいたが、北町高齢者センターの小規模サービスハウスについては、北町高齢者センター小規模サービスハウスのあり方検討委員会を中心に、おおむね10年後の施設のあり方や、求められる役割について、市と連携して検討を進めていただきたいと書かれている。モニタリング評価委員会の指摘事項として、そう書かれている。

コミュニケアサロンについても、施設の老朽化に伴う不具合箇所については、利用者に影響がないように、引き続きできる限り迅速に対応いただきたいと書かれている。これは先ほどの説明で、大規模改修は8年後だが、入居者に必要な改修や、利用者に影響がないように対応しなくてはならない部分については迅速に行うこと。それは適宜できますよという整理だと思う。

聞きたかったのは、北町高齢者センター小規模サービスハウスのあり方検討委員会と、この北町高齢者センターあり方懇談会は別物という理解でよいのか。

【事務局】 今ご指摘いただいているのは、令和3年度に公社の中で設けられた内部検討委員会である。

【委員】 公社の中に設けられた検討委員会がこれだということか。そのため、この委員会とは違うということだと思う。公社の委員会では、おおむね10年後の施設のあり方について報告書が出ている。我々はそれを踏まえて検討しているという整理でよろしいか。

【事務局】 そうである。

【委員】 どうしてそういうことを申し上げたかという、報告書に検討の経緯もきちんと書く必要があると思っている。そうでなければ、ロジックがつかないところがある。例えば突然みずきっこが出てくる。前回のボランティアの皆様との意見交換会でも、「高齢者」という冠を取ってはどうかといった提案が出てきたが、それはおそらく高齢者で始まったものが、途中で何かの理由でみずきっこが機能的に加わっている。それは必要があったから加わっている。そして、今後みずきっこは残すという話であるから、これまでの歩みは、沿革も読ませていただいたし、今までの倫子先生たちの思いもずっとお聞きしている。それとあわせて、市の側の北町高齢者センターに対する取り組みの経緯、過程において、みずきっこが加わっているのだと思う。報告書なので、そこはきちんと整理しておかないといけない。この委員会で議論している方々は、様々な情報を知っているので、つながっていくが、初めて読む方だと、理解がなかなか難しくなる。

2ページは、表にしたほうがよい。左側は「センターのこれまでの歩み」、右側に背景的事実、介護保険法ができたことなど、そういうものも全て書く。それから、公社のほうでこういう検討会が置かれて報告書が出たとか。みずきっこのときも、おそらくそういうものがあってみずきっこが加わったはずなので、そういうことを2ページでは丁寧に書いたほうがよいと思う。北町高齢者センターのヒストリーと時代背景を、対比できちんと書いておいたほうがよい。というのは、先ほど申し上げた、北町高齢者センターは実は古くて新しいんだということを後々書きたいがために、それは絶対必要かと思う。

みずきっこにしても先取りをしている。今、長期計画の調整計画でも、子ども・子育てのところは重要だということを書こうとしている。そうだとすると、みずきっこもそういう時代の要請に基づいて、そういう機能を北町が持ったということである。ともすると、倫子先生ご夫妻の思いをヒストリー的に記録にとどめることに終始しがちだが、それはそれで外してはいけないことなので大事なのだが、ただ、北町高齢者センターがたどってきた変遷というのは、時代の要請と倫子先生ご夫妻の思いを酌みながら、将来に向けた検討

を行い、そして都度、新しい機能を加えてきた。今回のこの委員会もそういうことで、我々はそういうものをきちんと受け継いでいますよということをきちんと書くことが、これまでかかわっていただいたボランティアの皆さんへの、きちんと受け止めていますよという答えになるのかなという気がしているので、そのようにまとめたほうがいいかと思っただ。

【事務局】 今おっしゃっていただいたとおり、みずきっこの開設については、市のほうで、やはりこのような委員会を立ち上げた。その当時は旧山崎邸活用検討委員会といったものを立ち上げて検討した結果、デイサービスの拡充と、みずきっこの新たな開設というところに至っている。であるため、例えば右側に今の背景や、そういった事実を書いた上で、横並びできちんとわかりやすいような形でお示しをしていきたいと思う。

【委員】 デイサービスの現状の報告書にもあるように、収支の赤字が続いているというのが現状である。実際に私も通所事業所、通所介護とリハビリの幹事会に出席させていただいているが、市内の通所事業所の減収というのは、軒並み大きな問題になっている。だからということではないが、コロナや、利用控え、利用者負担の増加など、色々な問題はあろうと思うが、資料2-2にあるように、現場の意見としては、月曜から金曜までのデイサービス、土曜については広くそういうコミュニティ食堂やカフェのような形で使用できるとよいとは思っている。

施設の設備面について。大規模改修がどの程度で実施されるかはわからないが、実際問題、本館と旧山崎邸のデイサービス利用者の方の利用については、1階にフロアがあるが、個別機能訓練のときには、エレベーターを使って2階に行かなければならない。それもグループ分けして、少人数で頻回に行く。また、お風呂については、旧山崎邸に行く。その移動についてもやはり職員が分散してしまうので、安全を確保するために、ある一定の人数が必要になっている。結局そういう部分でも人件費がかかっているというのが大きな原因だと思っている。そういう部分では、大規模改修や、お風呂の問題、通常のデイサービスにあるように、ワンフロアで、効率的に職員が安全を確保できる。そういう視点も、もし検討していただければ助かる。

【座長】 動線の部分も含めてというところであるほどなと思う。

委員、ふだんボランティアで活動されていて、建物の構造や、もう少しこうなったらといった、何かお気づきの点やご意見があれば。

【委員】 早くコロナがおさまってほしい。そうしないと、いろいろできないことがあ

る。

【座長】 逆に、それさえおさまれば、また工夫しながらいろいろできることもあると。

【委員】 今までやったこともできなくなっているし、ボランティアの方も参加できなくなっている。

【座長】 旧山崎邸の2階はつながってない。これが合体できたら、いろいろできる。みずきっこも狭い中でやっているのかなと思った。高齢者とみずきっこの利用者のお子さんやお母さんとの交流とか、そういうのも話題に出ていたかと思う。山崎先生のお宅を改修というのも気が引けるところはあるが、何かそのような形で、2階も広く活用できるような動線ができたならよいと、資料2-2を見ながら思った。

【委員】 山崎邸の1階の部分は、先ほど委員からもお話があったが、お風呂があったりして、ここは使いづらいというイメージがある。お庭とここはつながっているので、お庭を含めたコミュニティカフェのようなものにするのであれば、浴室などはどこか別の場所に持って行って、ここをもっと広く地域に開放できるような形にできれば使いやすいかということは感じている。

本館は、例えば月曜から金曜までをデイサービスに使うと、土曜日をコミュニティカフェに使うとなると、テーブルの移動などレイアウトの変更も必要になり、地域の皆さんが自由に入出入りするとすると、使い分けが難しいと思う。

【委員】 座長も言っていたが、みずきっこの部分を広域的にどう確保できるかということと、やはりボランティアの方のご意見でも、世代間交流というところを出ていたと思うので、より世代間交流できるような仕掛けが何かできればと思っている。

【座長】 そこはハード面の構造で促進できる場所もあるのかといったことで、入り口がおそらくばらばらかと思う。完全ではないが、セパレートされている感じはあったので、何かうまいところで出会えたりというのもあるのか。そこは細かい話にはなってしまうが、私もそのように思った。

【委員】 もう一つ。メモリアルルームというのが今玄関先で、ちゃんとしたメモリアルルームじゃないイメージがあるので、もし改装できるのであれば、1階を改装するときには、地域に開放したときに皆さんに見てもらいやすいような形に変えていただくとよいと思ったことがある。

【座長】 実際に診察されていたところか。

【事務局】 あそこが診療所の入り口で、待合室になっていた部分である。

【座長】 待合室のところがメモリアルルームか。

【事務局】 それを活用するという意味で、あの場所という形になったので、入り口は前の診療所のままである。構造上少し難しくなってしまったというのがある。

【委員】 報告書について。まず、13 ページの資料 2 は、第 1 回委員会のために、設置要綱のご説明をいただいたが、第 1 条の 2 行目に「施設の老朽化、利用者像の変容、子育て支援施設の併設による機能の付加等、開設当初と様相が変化している状況を踏まえ」と書いてあるので、この委員会は踏まえなくてはならない。踏まえるとなると、まず、「利用者像の変容」はどこかというところ、5 ページの「デイサービスセンター利用実績」くらいしか見当たらない。それから、「子育てひろば事業活動状況」が次のページである。4 ページの上に「高齢者の状況」と書いてあるが、基本的には高齢化率しか書いてないので、「利用者像の変容」はどう言うのかということがある。

「子育て支援施設の併設による機能の付加等」というのは、先ほど申し上げたように、時系列のところでも補足すればよいだろうと思う。

「施設の老朽化」は、資料 3 に図面があるが、これだけだと老朽化はわからない。これはできたときの図面なので、これだけ見ると、立派な施設だなと思うが、これを受けて築年数が何年たつて、このような部分にこのような危険性があるとか、耐震がだとか、何かないと、老朽化を踏まえたことにならないのかと思っている。

それを踏まえて、次の第 2 条において、「北町高齢者センターの役割に関する事項」、「コミュニティケアサロン（デイサービス）の現状と課題に関する事項」、「小規模サービスハウスエリアに関する事項」、この 3 点を市長に助言しなければならないと、設置要綱に書かれている。そうすると、「コミュニティケアサロンの現状と課題」というのは、7 ページ以降の「コミュニティケアサロンの継続について」というところでおそらく意見がまとめられている。設置要綱があつて設けられた委員会なので、設置要綱に対する答申というか、あくまで委員会ではなくて懇談会なので、助言となっている。こんな意見がありましたといった話でよいと思うが、そこは設置要綱との対比においては、その答えが書かれてないといけないかと思っている。そこはもう一度整理をしていただきたい。これまでの検討経過は取りまとまっているが、設置要綱との対比で見ると、まだ少し書き足りないところがあると思ったので、そこは整理が必要かと思った。

この委員会での委員のご発言など、また前回のボランティアスタッフの皆さんとの意見交換を踏まえて思うのは、北町高齢者センターは実はボランティアの育成に大きく寄与

してきているような気がする。誰かのために、地域のために、自分たちの思いや知識、経験、スキルを持ち寄って、それを地域に還元していく、役に立ててもらおう。そういうことが綿々と受け継がれてきているというのは実はとても大事な機能である。3つの機能というものに加えて、北町高齢者センターがずっと育ててきたものは、我々はちゃんと評価しましたよというのを書いておいていただきたいなと思う。

【座長】 とても大事なご指摘だと思いながら伺っていた。報告書の記載の仕方等から、スペースの活用方向、イメージなどといった細かな点から幾つかご意見が出たかと思う。そのあたりを報告書でブラッシュアップしていただき、次回が最後になるかと思うが、懇談会のほうでまた検討していくという形になるかと思う。委員の皆様はよろしいか。（委員了承）それでは、これで第5回の懇談会は終了とする。

午後7時24分 閉会